



平成 27 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社ジオネクスト  
代表者名 代表取締役社長 足利 恵吾  
(JASDAQ・コード 3777)  
問合せ先 取締役経営企画管理本部長 相良 明由  
(TEL. 03-6804-2831)

## 平成 27 年 12 月期 第 2 四半期累計期間業績予想と実績との差異 並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 27 年 2 月 10 日の平成 26 年 12 月期決算発表時に公表いたしました平成 27 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 27 年 12 月期通期(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 27 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)連結業績予想と実績の差異 (百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	130	△25	△43	△43	△1 円 08 銭
実績値 (B)	96	△163	△196	△199	△4 円 92 銭
増減額 (C)=(B)-(A)	△34	△138	△153	△156	—
増減率(%) (C)/(A)	△26.2	—	—	—	—
[ご参考]前年同期実績	156	△43	△61	△93	△3 円 07 銭

#### 2. 差異の理由

売上高は、IT 関連事業において Web アプリケーション開発・運用ソフトウェア製品の更新需要が対前年比で減少したこと、ヘルスケア事業において調剤薬局の来店者数の増加度合いが見込みに達しなかったこと等を主因として、実績が当初予想を下回りました。

営業利益は、上記売上高の未達に加え、再生可能エネルギー事業において太陽光発電所の建設、売却等を推進するために体制を整備し、これに応じて管理部門を強化したこと等を主因として費用が先行し、当初予想を下回りました。経常利益は、営業利益の未達によるもののほか新株予約権の行使に伴う支払手数料等が発生して、当初予想を下回りました。四半期純利益は、ほぼ経常利益に連動して、当初予想を下回りました。

3. 平成 27 年 12 月期通期(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)連結業績予想の修正

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,700	150	114	114	2 円 85 銭
今回修正予想 (B)	1,680	50	△10	△15	△0 円 37 銭
増減額 (C)=(B)-(A)	△1,020	△100	△124	△129	—
増減率(%) (C)/(A)	△37.8	△66.7	—	—	—
[ご参考]前期実績	264	△175	△246	△274	△8 円 01 銭

4. 修正の理由

売上高は、IT 関連事業におきましては前述のソフトウェア更新需要の減少を考慮して当初予想 90 百万円から 60 百万円への減額、環境事業におきましては建物メンテナンス契約の一部規模縮小があり 110 百万円から 100 百万円への減額、ヘルスケア事業におきましては調剤薬局店舗への来客数は毎月増加しているものの計画を下回る見込みのため当初 200 百万円から 70 百万円への減額修正となりました。再生可能エネルギー事業におきましては、当初予想において太陽光発電所の完成引渡しによる売却収益を第 3 四半期に計上する計画でしたが、営業活動を進めた結果、太陽光パネルの設置工事は相手先において行う条件での引合いが優勢であることから設置工事部分を予定から除外したこと等により、当初予想 2,300 百万円から 1,450 百万円への減額修正となりました。

営業利益は、売上高の減額修正に伴う営業利益の減少を主な要因として当初予想を下回る見込みですが、太陽光発電所の売却に伴う利益計上を下期に計画していることにより上期の営業利益のマイナスは通期で改善される見通しです。経常利益及び当期純利益につきましては、ほぼ営業利益のマイナスに連動する形となり、下方修正となりました。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上